

Title	基研における大学院教育(基研の将来像,京都大学基礎物理学研究所 将来計画シンポジウム記録)
Author(s)	佐々木, 節
Citation	物性研究 (1991), 55(6): 634-637
Issue Date	1991-03-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/94485
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

基研における大学院教育

佐々木 節（基研宇治）

これまでは基研では固有の大学院生を採用しなかったが、今後は、共同利用研としてより発展するためにも、小人数の大学院生を採用する方向に向かうべきだと思う。以下で、その理由について説明し、私案を示したい。そのためまず、基研の果たすべき役割、これまでの歴史、国内外の研究所の現状、についてまとめる。

共同利用研としての基研の役割

- (1) 全国の理論物理研究者を日常的に support
 - ・ 研究会開催
 - ・ 研究交流援助（研究費・旅費 etc.）
 - ・ 情報ネットワーク
 - ∴
- (2) 国際的な研究交流の support
 - ・ YKIS、その他の国際会議、workshop 開催
 - ・ 外国人研究者の受け入れ
 - ・ 国外の研究所（eg., ITP-SB）との相互交流
 - ∴
- (3) 理論物理研究の Leadership
 - ・ 分野間交流
 - ・ 研究の方向性、将来計画
 - ・ 社会的責任（成果、啓蒙、教育、...）
 - ∴

これまで（～1990年6月）の歴史

- (1) 京大基研（現基研北白川）
 - ・ 発足当時から大学院生を採っていない。
 - ・ 講座はある（定員4名；京大理学部物理第一・第二専攻に所属）。
 - * 基研でこれまで院生を採用してこなかった理由（？）
 - ・ 全国共同利用を阻害？

- ・任期制が障害?
- ・京大理学部物理教室との関係?

(2) 広大理論研 (現基研宇治)

- ・ 4講座で毎年3名程度採用 (定員4名; 広大理学部物理専攻に所属)。
- ・ 博士後期課程からの編入も若干あり (過去6年で3名の実績)。
- * 理論研が院生を採用していた事による merit。
 - ・ 重力・宇宙関係の若手育成にとって貴重な存在。
 - ・ 所員の研究 activity にプラス。
 - ・ 若手を通じての他大学との研究交流にプラス。

他の共同利用研の現状

国内	KEK	受託院生受入れ (実験系は固有院生の採用あり)	
	核研	院生採用	
	宇宙線研	院生採用	
	物性研	院生採用	
	国立天文台	院生採用	
	数理研	院生採用	(独立専攻)
国外	Santa Barbara	院生採用	(UCSB と併任)
	Princeton	院生採用	(同大学と併任)
	Fermilab	院生採用	(Chicago 大学と併任)
	SLAC	院生採用	(同大学と併任?)
	Maxplanck	院生採用	
	Rutherford	院生採用	
	Niels Bohr	院生採用	
Trieste	SISSA で採用		

以上の現状は主に聞き伝えによるので多少正確さを欠くかも知れないが、はっきり言えることは院生を採用している研究所が圧倒的多数であることである。これは院生の存在が研究所にとって如何に重要かを意味しており、もし基研のみが院生を採用しないとすると、それなりの大きな理由ないしはメリットが必要であることを意味している。

そこで、理論研での経験やこうした現状に基づいて、以下に基研での院生採用に関する提案とそれによるメリットを示そう。

- (1) まず院生の採用可否を基研独自で決定できる体制を作る、*i.e.*, 数研同様の独立専攻科。
 - (2) 院生を修士課程から少人数（各学年2～3名程度）採る。
 - ・採るか、採らないかは所員相互で相談して決める。
 - (3) 博士後期課程からの編入を常時 open しておく。
 - ・M大の若手に対する大きな encourage。
 - (4) PDF・OD等も受け入れる（10～15名程度）。
 - ・滞在期間は原則的に2年以内。
 - (5) 院生は博士修了後、必ず外へ出す。
 - ・PDFの基研への集中、基研「生え抜き」の防止。
 - (6) 研究所全体として院生教育に責任を持つ。
 - ・分野にまたがる広い視野を持った若手の育成。
 - ・研究グループ個別化の防止。
 - (7) 院生も共同利用研の「所員」としての義務・責任を持つ。
 - ・「所員」の平均年齢の若返り、新企画・新分野等への柔軟かつ機敏な対応。
 - ・実質的所員数の増加による共同利用サービスの向上。
- * その他、大学院生がいることによるメリットとして考えられるのは：
- ・同世代の院生がいると所外の若手が議論などに来やすい。
 - ・所員の研究 activity の向上につながる。
 - ・院生を通じて、分野間交流も深まる。
 - ・基研出身の PDF・OD等が全国の研究 activity の向上に寄与。
 - ・院生の頃に共同利用の理念が育つ。院生は「お客様」ではない！

：

以上のように少人数の院生の存在はいろいろな点でメリットこそあれ、デメリットはほとんどない。従って、共同利用研として今後より発展を期するためにも固有の院生を是非採用すべき（少なくとも希望する所員が採用できるようにすべき）である。

討論

原：コメントが一つ、KEKは理論以外は固有の大学院生がいる。任期性があるから大学院生を取ってはいけないと言う議論はナンセンスである。先生が辞めれば学生を連れて行くことをやるべきで、任期があるからと言うような議論はしないで欲しい。

松田：私が（基研に）いたときは物理教室へ行って大学院生を指導した。何も基研の先生はここにじっとしてる必要はなくいくらでもできる。

佐々木節：共同利用研のシステムとして物理教室に depend するのは良くない。それで独立選考という案を出している。

松田：いま man power という点でお話がありましたけれど、そのことが悪くしている。man power だけでなく徒弟化もっと極端に言えば奴隷化みたいなものが生み出ている。そのためにいつまでも先生と離れられない、できるだけ早く日本の学生は先生から離れるようにしたほうが良い。

牧：（物理教室などへ行って大学院生を指導することは）可能だけれど、いやがられる。

池田清：大学の研究科と何処が違うのか。

佐々木節：この院生は全国の研究者の院生であるあることと同時にこの所員であるという立場でものを考える院生である。徒弟制度と言うものは考えていない。各研究グループによる研究室会議と言うものはそもそもないというのが前提。その他、共同利用の理念が若い頃から育つ。

基研将来計画委員会報告

井町 昌弘（九大理）

《経過報告》

- '90. 4 アンケート（全国研究者）回収数 86/配布数 403
6.8 合併
暫定案で運営
長期案作成の必要性（第 99 回部員会議）
8.22 第一回将来計画委員会 Free Discussion
アンケート → 拡大部員会議メンバー
38 通回答（回収率～50%）
回答のコピー → 拡大部員会議メンバー に配布
10.22 第二回将来計画委員会
・アンケートの結果の survey
・重点（人事、任期制、大学院、管理運営）について discussion。
11.22 将来計画シンポジウム